

令和4年度 第2回社会教育委員会 会議録

日 時 令和4年9月15日(木) 9時30分～12時

場 所 市役所 4階 入札室大

| | | |
|----|-------|-------|
| 委員 | 委員 長 | 谷勝 公代 |
| | 副委員 長 | 岡本 教穂 |
| | 委 員 | 田中 亨胤 |
| | 委 員 | 高瀬 由美 |
| | 委 員 | 松尾 弥生 |
| | 委 員 | 村上 尚美 |
| | 委 員 | 中村 和子 |
| | 委 員 | 菅野 裕之 |

1名 欠席

| | | |
|-----|------------|-------|
| 事務局 | 教 育 長 | 民輪 恵 |
| | 生涯学習課 課長 | 北島 悦乃 |
| | 生涯学習課 課長補佐 | 高見 和哉 |
| | 生涯学習課 職員 | 近藤 優佳 |

1 開会

2 教育長あいさつ

(教育長)

おはようございます。本日は、お忙しいところ、ご出席くださりありがとうございます。

今日の会議のメインテーマは、「加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会」だと聞いております。本来であれば、社会教育委員の皆さんには全員出席していただくのが一番良いと思っているのですが、そういうわけにもいきませんので、委員長と副委員長が代表として出ていただいております。

先日のあり方検討委員会は、予測していた以上に素晴らしい意見がたくさん出ました。皆さんいろいろと考えていらっしゃるのだけれど、それを表明したり、前向きに解決したりする場がなかなかないのだと実感いたしました。やっぱり、ここぞという時には、本音で議論していただくというのが一番良いと思っています。

その一例として、「未来の学校構想検討委員会」というものがあります。それは17人の委員で構成されています。進め方として、自由に思ったことを言って良いという前提の雰囲気がありますので、その分まとまりにくいですが、でも、そこから意見を吸収して、どうまとめていくかが、主催者側の姿勢であり、手腕だと思います。

ですから、今日の会議では、皆さんに思いの丈をお話しいただいて、その代表として委員長と副委員長には、あり方検討委員会に出ていただくのが良いかと思います。

昨日、総務委員会がありまして、「未来の学校構想検討委員会も事務局の言うとおりにまとめるだけなのでは」という意見が出ました。決して、そのようなことはございませんが、素案は事務局が議論をして作っています。自分たちはそれを悪いものではないと思っていますが、そうではないという意見もあります。異論を全て入れるということは難しいですが、そういう思いの丈を出していただき、まとめるということが大変大事かと思っています。

昨日の答弁で、市長は、「自分は、未来の学校構想検討委員会の会議の議事録も細かく読ませてもらっています。ディベートがとてもよく出来ていて、大変いい会議だと思います。受け入れて活かしていきたい重要な意見であると受け止めております。」とお話なさっていました。

伝えるだけではなく、そういうことが津々浦々で出来ていかないといけないなと思います。今日は、あり方検討委員会についての思いを委員長と副委員長に伝えていただき、委員長と副委員長は、それを持って、代表としてその場で意見を話していただきたいと思っています。

3. 社会教育委員長あいさつ

(委員長)

皆さん、おはようございます。今日は、予定外の集まりでしたが、皆さんご出席くださり、ありがとうございます。

先程、教育長さんがお話しされた通り、未来の学校構想検討委員会は、今までにないような進行の仕方でした。今まで教育現場の先生には言えなかったことも、ここでは言って良いのかなという考えも徐々に生まれてきました。そして、現状を変えていかないといけない、私たち市民も変わっていかないといけないということを痛切に感じる事が出来ました。

今回のあり方検討委員会は、委員長と副委員長で出させていただくこととなりますので、今から皆さんのご意見いただき、二人で受け止めて発言して参りたいと思います。

この前のあり方検討委員会では、教育長から新しい公民館の未来像を作るという

こと、各委員から繋がる空間の仕組みを作ること、住民が主体であること、そして、公民館の必要性など、あらゆるご意見をいただいております。

また、今、必要性がないであろうと思われる 30 代、40 代の方からもご意見をいただいております。市がどんな市民を育成していきたいかというようなご意見もこの会議録に含まれておりますので、また目を通していただいております。ご理解をいただければと思います。以上が前回の報告となります。

今日はいろいろとご意見を賜ればと思いますので、よろしく願いいたします。

4. 協議事項

(1) 公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会について

(事務局)

～本委員会の主旨と公民館・オークタウン加西の現状・課題について説明～

(委員長)

ありがとうございます。では、ご意見・ご質問等はございますでしょうか。

(委員 D)

3 点質問をさせてください。まず、運営委員会はあるのでしょうか。また、館長と職員の仕事は、具体的にどのようなもののでしょうか。そして、今いろいろな事業をされているようなのですが、これらは誰が企画・運営を担っておられるのでしょうか。

(事務局)

まず、運営委員会については、以前はありましたが、現在はありません。館長と職員の仕事は、貸館業務、主催事業、かしの木学園（高齢者大学）、施設全体の管理、来客対応あたりです。事業の企画・運営に関しても、基本的には各館で行っていただいております。随時、生涯学習課も提案や相談はさせていただきます。

(委員 D)

公民館であれば 3 名の職員、オークタウンであれば 2 名の職員ですべて担っているということですね。それが一番いけないのではないのでしょうか。

地域での課題や住民・社会のニーズを掴んで、毎年企画をしないといけないと公民館の活性化は難しいと実感しています。それをこの人員配置で実現することは、難しいのではないかと思います。

地域の方と知識のある方、そして、教育委員会が入って企画を練る企画委員会みたいなものがベースにあるべきだと思います。そうすると、青少年のこともしなければいけないということが出てきますよね。それに、高齢者大学はなぜするのかという議論も出てくると思います。議論があるところには、活気があって、活気があるところには良い企画ができて、そこには人が集まってくると思います。まずは、そこではな

いかなと思いました。

～まちづくり協議会の事務局として公民館を使いたいという話について～

(委員 B)

公民館のなかに、まちづくり協議会を置いていらっしゃる他市町村が多いので、その仕組みを調べてみたらどうでしょうか。公民館の中に事務局をおいていらっしゃる場所は、最近すごく多いですよ。

(委員 D)

私は、行政の仕事は、法的根拠がないことをしてはいけないと考えています。市民に対して説明が出来ないと思います。条例であれば変えることができますので。

(委員 B)

町に委託して運営することも不可能ではないと思います。オークタウン加西もそのような時期はありましたでしょう。一度、実際に上手く行っていらっしゃる場所のことを調べられたらいいかと思います。

(委員長)

先程、善防公民館の中に机と椅子を置いたら中学生が来るようになったというお話がありましたが、以前も机と椅子を設置するようなことがありましたね。それが、全部撤去になりましたよね。

(委員 B)

何年前に、加西の子どもたちには、学習の場や居場所といえるところが、アスティア加西しかないという話が社会教育委員会で話題に上がったのですよね。

ただ、机を置いているところは多いですが、管理が難しいのです。しっかり面倒を見ないと、置いているだけでは使い方が乱雑になります。使う時間や返す時間、掃除したかどうかのチェックリストを作るなどの手間もあったのかもしれない。

(委員長)

せっかくその場所を設置するのであれば、どう活かしていくかが大事ですね。

(教育長)

やはり、先ほども話に上がった運営委員会を作らないといけないかなと思いますね。

今は、誰がこの企画を考えて運営しているかが見えないので、「今の世の中の流れからみれば、こういうことが必要だ」というような企画会議が必要だと思います。

(副委員長)

確かに、運営委員会を集まってすることは非常に大事なことだと思います。公式的でなくても良いと思うので、準備のような形で一度行ってみるのもいいのではないのでしょうか。

(委員 C)

私は、いつも公民館の活動とその存在の目指す目標は何なのかなと思っています。例えば、学校であれば学習指導要領があるように、加西市の生涯学習課で4つの公民館の指針を決めて、それにみんなが従っていくと、もう少しまとまるのではないかと思います。

まずは大きな目標を出して、その後に年代ごとに細かく作らないといけないのですが、背骨の部分が決まっていなくて後が決まっていけないので、まずは指針を作らないといけないのではないかと思います。

(委員 D)

それについては、「集まる・繋ぐ・学ぶ」というテーマがあります。ただ、テーマと対象者をマトリックス型にした指針が必要なのではないかと思います。生涯学習は、ゆりかごから墓場までの人生を豊かに生きるためのものですからね。

(委員 C)

そうですね。マトリックス的なものがあって、そこに、「加西市だから」というものが含まれていないといけないと思います。そこには、有識者の意見や地元の代表の方などを取り入れて作るのが理想かなと思います。

(委員 B)

公民館は、人材を作る教育の場ということがその価値だと思います。貸館にするのであれば、まちづくり協議会などに任せてコミュニティセンターになればいいですから。

ただ、社会還元が大事だとおっしゃるのであれば、その視点が公民館長にあるのかなと思います。講座をして、グループ化をして、グループが地域に必要とされる人材になって出ていくことが、以前は出来ていたけれど、今はその部分が薄くなっていると思います。だから、講座の内容も単発が多くて、それが系統立ててグループ化を目指した順序立てが出来ていないように感じます。ほかの公民館と同じような時期に同じような講座があるのは、あまり意味がないですね。

ここ数年、私のところには、コロナ禍で弱ってしまった団体力を高めるというご依頼が多いです。それは、そういったことを危惧している職員が多いということです。職員が人材育成をするのであれば、登録グループさんを頼りにしていて、あなたたちが頼りだということをどれくらい伝えられているのかなとも思います。人は求められていないのに頑張ったりしないですからね。

(委員 D)

男女共同参画センターも、出来た当初はすごく良い活動をされていたのですが、今は貸館になっているのですよね。

全体的に生涯学習に対する考え方が散らかっているのではないかと思います。誰が運営して、何を目指していくのか。今は、場の提供しかしていないのではないかと思います。あり方検討委員会の場でも、根本的な枠組みから議論してもらわないと市民には何も見えていないのではないかと思います。

(委員 A)

三田市は、公民館をすべて潰したのですよね。そもそも公民館とは何なのかという議論の中で、特定の人だけが使う内向きのものではなくて、市民にどう開いていくか、そして、市民の共用利用施設という観点から公民館を市民センター化したのです。市民センターとは、複合施設としての多機能を発揮する拠点ということになります。

一方で、加西市の公民館は、人づくり・地域づくりの拠点として、それぞれ持ち味を出しながら市民全体に開いていく。公民館は排除する砦ではなく、偶然そこに置かれているだけで、すべてに開かれていますので、今ある資源を調整して、どう再生するか考えていかなければいけないと思います。

それから、あり方検討委員会の報告で利用者の高齢化とあったのですが、アフリカでは、「高齢者は地域の図書館」という言葉があります。高齢者は、介護の対象などマイナスイメージな存在ではなく、豊富な知識・技術・ノウハウを持っているという意味です。

なぜ、高齢者をそれだけリスペクトするのかということ、マンパワーを持っているからです。そういう意味では、利用者が高齢化しているということは、公民館はすごいということになります。あなたの持っている資源をいかに提供してもらえますかということになるのです。

(教育長)

そうですね。地域に開かれた学校、そして、地域に教師を求めるという考え方は、公民館も同じだと思っています。小学校を 11 校残すということと公民館を活性化するという事は、ある意味ひとつに結びついていくことなのです。閉ざされた空間にせず、地域に開いていく、そして、地域の人もそこを活用するという志を貫いていかないと。今やらなければ、20 年後になったら、どこも限界集落になっている可能性が高いです。

(委員 E)

宇仁小学校区は、まちづくり協議会を中心に地域のまつりをされています。秋にはコスモス祭りを開催し、その中で小学生がガイド隊をするのですが、今年は思い切って会場を学校に持ってきて、地域の方を学校に入れてガイドする計画をしています。

まさにそのように、地域に開かれた学校づくりの機会を作りたいと思っています。ただ、北部公民館は、物理的にそこに行くことは難しいのです。

特に、中学生は部活動や塾があって忙しいので、そこに積極的に協力することは難しいのです。なので、夏休みなどを利用して、北部公民館を会場としたイベントなどを開催して足を運んでもらうきっかけを作ることが大事かと思います。

そうすると、公民館ではどういう活動をしていて、何があるかということがわかります。まずは、そういう具体的な策を作って、中学生も公民館に行く機会を作っていたら、何かしらの交流もできるのかなと思います。

(教育長)

まずは、開かないと公民館は、絶対に活性化しないです。もうひとつ視点として出したいのは、何のために全公民館に **STEAM** ラボを設置し、オンラインで結ぶのかということです。それは、実際にそこまで行かなくても参加することができるようになりますので、それぞれの公民館が特色を出しながらも結ばれるために行っているのです。それももう少し真剣に考えないといけないなと思います。

生涯学習課だけではどうしても難しいので、皆さんにお力を貸していただいて、運営委員会を何回かしていただきたいです。具体的に取り組んでいただかないと来年度もまた同じになりますからね。

(委員 B)

繋がって講座を受けることも大事だと思うのですが、高齢者大学に限っては、受講するだけでは満足感が全然足りないと思います。何でもいいから学びたいという世代から、自分のこだわりを持って学びたいという世代に変わっていますので、どこも人集めに苦労されています。

それでも持ちこたえている高齢者大学は、クラブ活動が豊かであったり、人のつながりをちゃんと持っていたりします。例えば、終わった後に情報交換ができたり、感想を話せたり、ちょっとした地域貢献の活動が出来たりですね。丁寧に事務局が見ているところは人が減っていないです。

南部公民館は、前年度までは通信を発行していらっしやったでしょう。それは、コロナ禍でつながりがなかったから行っていらっしやったのかもしれないですけど、今はもうやめられたのですよね。そんな良いものをわざわざ無くす必要はないし、言い方が悪いけど怠慢かなと思います。

(教育長)

やっぱり人が大事なのですよね。公民館の職員も、本当にしたい人にしてもらわないといけないのですね。全員が会計年度職員ですので、責任を取ってもらうのであれば、給与体系や雇用形態をしっかりとしないといけないと思い、我々もいろいろと取り組んでいるところです。

(副委員長)

任期があるのが難しいところですね。

(委員長)

私は、運営委員会があつて当然だと思っていました。

私たち婦人会も公民館から何か依頼を受けた時に、報告を誰にするかと聞いても答えが出ないのですよね。どの方が主催でどのような意向を持っていらっしゃるのかを、私たちも教えてもらわないといけないのに、公民館と打ち合わせをしても何も見えてこないのですよね。こちらも困ってしまっているというような状況が続いていたので、運営委員会をしっかりと持っていただきたいですね。

(事務局)

運営委員会は、今はないというのが現状ですが、必要なのだと思います。メンバーについては、即答できませんが、社会教育委員の皆さまにも是非ご参画いただき、お力をお貸しいただければと思います。

よろしく願いいたします。

5. 報告事項

(1) 東播磨・北播磨地区社会教育振興大会（西脇市）[7/9]

(2) 近畿地区社会教育研究大会（奈良大会）[9/2]

6. その他連絡事項

(1) 東播磨・北播磨地区社会教育・公民館研究大会（高砂市）[10/20]

(2) 兵庫県社会教育研究大会（神戸市）[11/30]

7. 閉会

(副委員長)

本日は、いろいろとご意見をいただきまして、ありがとうございます。

正直なところ、あり方検討委員会は、結構難しいなと思いました。個々のことは、こうした方が良く出来るけれど、それは時間が経つと元に戻ったりします。しかし、今日の会議で運営委員会を作ってみるのはどうかというような意見が出てきて、微かな希望が見えてきたかなと思いました。

今日は長時間どうもありがとうございました。